幾度見ましても見あきる事のない美事な写真の揃ふて居ります
より西本をお送し貰ひたくてありがとうございました
信州の山々が居山出て居りますので自分の知て居る廻りの山々の事を
此幻に書き出さて見ました
京都より西の方の諸国の山々ことに九州の山々は地方気候などの
関係でもありましようが美事の山々が居山あります事を
初めて知りました
写真を見ましての思い出
百四十二頁にのせてある木曽の御岳様は和井の方からは見えません
山頂に御岳神社があり和井の村からも御岳講の人々がおまいりに行く
山であります山頂は寒さきびしく昔の事であります雪の時に
まゆとつれる時に使つた日本紙と鉈坂も張り合はせて作りました人が
すつぽりつる事の出来る丈夫な紙袋か軽いのでそれをたたんでもつて行き
其の中にのつて居ると暖く食料はもちとつく時砂糖をつれると何時迄も
やわらかく又小麥と豆とり柿の摩とを作る時にむいた皮をほして
おくと白粉がふき出て甘いのでそれをまぜて石臼でひいた物香せんと
いふて居りますがそんな物ももつて行て食料にした水さえあれば
間に合い一番便利なものだと古老の方達の説明であります。
二百廿一頁。和井の村から西側に見える連峰の地図の説明
地図の上に長野と書いてある右側に飯綱（イイヅナ）名ヒメミヨウジョウ姫妙高（ヒメミヨウジョウ）戸隠（トガクシ）今一つ
此処には出て居りませんが四百十立頁の方には書いてあります飯綱の山のわし
手前に斑尾山（マダラ山）と処の人はいふて居り此の五つの系が和井の処から
千曲（チクマ）川の向う側はるかに真西に立ち並んで居ります此れを西の御岳と
いふて居り四期それぞれに美しい景色を見せてくれて居ります
又焼時のすばらしい景色等今でもまぶたの中に浮び上つてまいります
妙高山は特に神々しい姿を見せてくれて居りました。
百六十七頁と六十八頁にかけて此の山々の写真が出て居り又
二百廿一頁の地図の上方に妙高火山戸隠連峰とある処に
説明をされて居ります

一、

日本皇室の一番詣り善光寺のある長野市であり
西寺の裏山を城山といふて居ります
此の長野市からはるかな西南にかけて
中部山岳国立公園と云い高々の記されてある
一番下の方に奥穂高とありますが此処が
穂高連峰のある処であります　廣

日本山岳位置図関東中部（四百十五頁にある）を見ますと
物静の処からの東山脈連峰　上信越高原国立公園と赤い点々で記されて
居りこれを志賀（シガ）高原といふて居ります　湯田中とは山の内温泉郷の
一つであり つゞいて中野と出て居る処が物静の処であります。
二百十頁の地図の説明　地図の左側中央に長野と書いてある側にも
志賀高原とあります此の山ふところに山の内湯泉郷といはれている
湯泉場があります　これから山の仲の南方にかけて深山の温泉場があり近く
白根（シラネ）山はまた煙のくすぶつて居る火山であり其のそば九万座（マンザ）温泉といふ
昔は一軒こか宿やがたく其の先の方山脈から出た処に上州群馬県の草津
温泉があり長野原を通り前橋市に致る昔から馬の通れる道が開かれて
居りました　えと前橋（マエガシ）街道といはれて居り　物静の村の上の夜間瀬（ヨマセ）橋が
前橋街道一丁目の起点であります
小学校の遠足の時此の山の仲の道を歩いて草津温泉で泊まりがけ
一泊をしましたが宿屋の すぐ側を大きな湯川が流れて居り皆で其の仲に入り
足を洗つて宿屋に入りましたが宿屋で荷を運んで来た馬も一処に川で
足を洗つてもらい ちゃんと居りました　そこから
白根山の中腹を通り草津温泉迄行て帰りました
今一つ二百十頁の地図の左側の長野と書いてある下の方に菅平（スガダイラ）とありますが
物静の処から真南に見えます高原であり此の山の仲で炭を作る炭たき
小屋から真すぐに立ち登る煙がよく見えた事も小学時代の
なつかしい思い出となつて居ります
四百十六頁中関東中部とあります地図の中に上信越高原国立公園が
二ヶ処ありますが東側が志賀高原　それから西の方に又赤い点々で
記され上信越高原国立公園とありますのが物静の処から真西に
並んで居る西の五岳といはれて居る連峰のある処であります

今一万四百十六頁中にあります西の五岳のある上信越高原国立公園と
ある下の方に長野と書いてある処が善光寺平野につらなる城山の
ふもとに長野市があり此の長野市からはるかな西南にかけて
中部山岳国立公園と赤い点々のある一番下の方に
奥穂高（ホダカ）とありますが此処が穂高連峰のある処であります
百十五頁から浅山此の山々の字と頁が出て居ります
二百六十八頁に槍ヶ岳穂高連峰と記された処に説明とされて居ります

物語の処から真南に見える菅平（スガダイラ）の山の仲の炭たき小屋のある山なみと
西の五岳との間の平原を千曲川が北南に流れて越後の国に流れて行き
南方にむけて善光寺平が開けて居り其の仲を千曲川がおびの様に
うねうねと流れて居る様が物語の処は海抜千尺程の高台にあり
ますので雨天気の時にはるかになかめられましたが其の南方のはこに
低い山々が連らなりその又奥の方雲の上に山頂に雪をいただいた
穂高連峰がつらなり特に槍ヶ岳（ヤリガタケ）が槍の如くに雲の上につき上って
居る様が雨天気の日にはかすかにながめられました
皆なつかしい字句であります

長野市にある
物語の中野から善光寺迄四十里程であると思いますが
善光寺の城山に登ると雨天気の日には本家の屋敷迄あら
ありました大杉の木が見わけられたと父から聞いて居りましたが
仲がうろになって来ましたので切られて今は無くなって居ります

どうもありがとうございました

昭和五十五年四月　　昌乙

睦子様

一ノ瀬